

「Nプロ」の京大・中村秀仁助教

米国独立250周年祝賀式典に招待、連携継続を確認

米国大使館、在大阪・神戸米国総領事館は6月30日、米国独立250周年祝賀式典をユニバーサル・スタジオ・ジャパン(大阪市)で開催した。その場に、毎年約2000名の高校生を対象に、科学を共通言語として社会と対話する新たな学習を通じ、教育現場が求める若者の非認知能力を劇的に開花させている京都大学の中村秀仁助教の姿があった。

中村助教が主導している「Nプロジェクト」(通称・Nプロ)は、大阪・関西万博において文部科学省が主催した科学イベントでの協働を契機とし、在大阪・神戸米国総領事

館とのパートナーシップを深めてきた。2025年末に大阪府吹田市の公立小学校4校で計1704名の児童に対して展開された日米連携による人材育成の歩みが実を結び、記念式典への招待という評価に繋がった。

式典では、ジョージ・グラス駐日米国大使およびリチャード・ラーセン在大阪・神戸米国総領事館が壇上で記念挨拶を行い、日米の強固な絆と未来への展望を表明した。その後、会場は華やかな祝賀パーティーへと移行した。

中村助教は、グラス大使、さらにラーセン総領事の両外交高官と相次いで懇談。継続的な連携の確認と他地域への適用拡大による普遍性の証明に向けた前向きな対話がなされた。

万博で158カ国・地域語で一人を超え、来場者と計460名の高校生が対話を繰り広げたNプロが、次に目指すのは国際園芸博覧会GREEN×EXPO2027だった。



大阪市内で開催された米国独立250周年祝賀式典



グラス大使と中村助教

中村助教は「今までに多くの高校生が主体的に花とエネルギーの関係を学んでいる。残すは彼らが立つ国際舞台を整えるだけだ」と語る。その目が捉えるのは、単なる知識の詰め込みではなく、若者が自己変容を遂げる環境の創生であった。